

## ■ 著者紹介

### 村井敏邦 (むらい・としくに)

【プロフィール】 1941年大阪市北区浮田町生まれ。小学校5年生から新宿育ち。阪神ファン。

商売人の父の影響で一橋大学商学部に入學。卒業前に見た連続テレビドラマ「弁護士プレストン」に魅せられて、社会的に虐げられている人のための弁護士を志望。一橋大学法学部に學士入學・卒業し、司法試験を受ける。66年から2年間の司法修習を修了後、68年一橋大学助手に。同大学講師、助教授、教授を経て、2000年4月に龍谷大学法学部教授に転任。

現在、龍谷大学法科大学院教授、龍谷大学矯正・保護研究センター長。

【主要業績】『公務執行妨害罪の研究』（成文堂、1984年）、『疑わしきは… — ベルシヨール教授夫人殺人事件』エレン・ゴドフリー著／村井敏邦・村井のり子共訳（日本評論社、1995年）、『罪と罰のクロスロード』（大蔵省印刷局、2000年）、『刑法—現代の「犯罪と刑罰」[新版]』（岩波書店、2005年）、『民衆から見た罪と罰—民間学としての刑事法学の試み』（龍谷大学矯正・保護研究センター叢書）（花伝社、2005年）等多数。